

あとがき

〈編集顧問〉

太田 保世
諏訪 邦夫
堀江 孝至
村山 正博

〈編集委員〉

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

〈編集協力委員〉

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔
(五十音順)

現在の医療の基本は臨床的なエビデンスに基づいた evidence-based medicine であり、いろいろな診療ガイドラインも臨床成績を評価した結果、作成されている。COPD ガイドラインについても同様である。

近年、COPD の概念や治療戦略自体を考え直させるような臨床成績がいくつか報告されている。大規模な臨床研究からは単なる薬剤の効果だけではなく、様々なことが見えてくる。例えば、コントロール群の長期の観察から、COPD という疾患はどういう経過をとるのかという自然歴、喫煙の影響、性差、人種差など疾患自体に関する重要な因子を検討することが出来る。そして、治療の効果についてはそれらの因子の層別解析からさらに多くの情報を得ることも可能である。大規模、長期になればなるほど多くの重要なことが分かってくる。

そのような研究の代表的なものが2007年に発表された TORCH Study であり、2008年に報告された UPLIFT Study であったと思う。思った通り、これらの研究はただ1つの報告だけではなく、多くの sub-analysis, post-hoc analysis の学会発表が行われ、複数の論文が出されている。この2つの研究結果から共通して言えることは、COPD は治療により進行を抑制し自然歴を変えることが出来るということである。これまで COPD に対する薬物療法は、自覚症状・運動耐容能・QOL を改善するということについては高いエビデンスが示されていた。しかし、経過や予後は変わらないというのが定説であった。これまで短時間作動性の抗コリン薬から始まり、吸入ステロイド (ICS)、長時間作動性 β_2 刺激薬 (LABA)、長時間作動性抗コリン薬、ICS/LABA 合剤、テオフィリン、喀痰調整薬などの臨床研究が行われてきて、COPD の治療は一步步に進み、「COPD は治療可能な疾患である」と定義されるようになった。このような歴史を踏まえて行われたこの2つの研究は COPD にとってランドマークとなるものである。そういう意味で今回の特集を企画した。

今月号の特集からは、個々の治療の効果のエビデンスだけでなく、COPD という疾患の概念がどう変化してきたか、病態がどう明らかにされてきたか、ということまで読み取って欲しい。そして、何よりも「だから自分たちが今何をしなければならないか」ということを分かって欲しい。一人でも多くの医療関係者がそのような気持ちになり、一人でも多くの COPD 患者が治療されるようになればよい。そんな思いで、今月号の特集を読みました。

(相澤久道)

呼吸と循環 (第57巻 第8号)

2009年8月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2009年, 年ぎめ予約購読料 31,800 円)
(電子ジャーナル閲覧オプション付 41,400 円)
(税込み, 配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 樋川・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。